

(4) 教育推進計画

研究主題

○川地中学校区研究主題

「主体的・対話的で深い学びを続ける児童・生徒の育成」

～各教科等・単元の本質を踏まえた、学び合う授業づくり～

1 本年度の取組の重点

- (1) アウトプットとフィードバックを重視した教育活動の展開
- (2) 語彙力を向上させ、読解力や思考力や情報を整理する力及びコミュニケーション力を高め表現力を身につけさせる取組
- (3) 個別最適な学びのためのICT機器の効果的な活用
- (4) 「学区コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の推進に向けた取組
- (5) 小中・小小連携による通学への不安解消（円滑な接続）に向けた取組
- (6) 学校備品と予算を効果的に活用し、教育環境の充実を図る

2 川地中学校で身に付けさせたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性
・知識 ・技能	・思考力 ・判断力 ・表現力	・協働性 ・主体性

○特に身に付けさせたい力

知識及び技能	知識 技能	社会生活とのつながりを考え、各教科等で習得した知識・技能を身につけ、実生活で生かす力
思考力・判断力・表現力	思考力 判断力	よりよい課題解決に向け、必要な情報を活用しながら、多様な見方・考え方ができる力
	表現力	目的や場面、相手に応じて、調べたことや自分の考え、意見等を説明できる力
学びに向かう力、人間性	協働性	他者とかかわったり協力したりしながら、課題を解決したり、自らの考えを広げたり深めたりする力
	主体性	夢や志を持ち、継続して自己の向上に努め、将来の生き方について考える力

3 主題設定の理由

川地中学校区では、「表現力」をベースとした主体的に思考する児童・生徒の育成を小中一貫として研究を進めている。特に中学校では、令和元年度から「アウトプット重視」として、目的や場面、相手に応じて調べたことや自分の考え等を表現する力の育成を研究している。

令和2年度からは、語彙シートやミニホワイトボードを発表、話し合い、振り返りの場面等に活用してきた。また、令和3年度からは、タブレット端末の導入に伴いICTを活用し、思考の深化、形成的評価等に生かし、授業研究や実践交流をすすめることができた。さらに、本質的な問いの視点を設けたことで、指導事項と活動を効果的に設定し、生徒に身につけさせたい力を明確化することの必要性を確認することができた。

令和6年度からは、複数の資料を読み取る力の育成の必要性と、情報化が進む社会での情報の整理の必要性の高まりから「情報を整理する力」を加えて取組を行ってきた。引き続いて研究を行い、題意を適切に読み取ることができたり、資料から必要な情報を読み取って適切に記述したりする力の育成にも取り組んでいく。基礎知識

の定着を徹底し、それを活用して考えや意見を述べることができるような生徒を育成していく。

4 研究仮説

アウトプットを重視（Input：Output＝3：7）した授業実践をするとともに、本質的な問いの工夫及びファシリテートを軸とした言語活動の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びとなるだろう。

5 研究推進の方法・内容 重線は重点項目

（1）主体的・対話的で深い学びのための授業改善（単元構想）

学ぶことに興味や関心を持ち、自己の将来を見通して、粘り強く取り組み、学習活動を振り返って次につなげる意識をもたせ、生徒同士の協働や教職員、地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めていく。そして、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、知識を関連付けて理解を深めたり、考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、創造したりする学び。

- ①教材の提示の工夫や導入の工夫
- ②言語活動の設定や課題発見・解決学習の設定、体験的な学習の設定
- ③基礎的・基本的な内容の確実な習得と定着
- ④パフォーマンス課題の工夫や課題設定の工夫、問いの工夫
- ⑤タブレット端末やホワイトボードの活用、効果的な使い分け

（2）基礎的・基本的な内容の習得と定着

- ①習得と活用の両輪を位置付けた単元構想
- ②各教科の帯時間の活用や工夫、
- ③授業と連動させた宿題や自学習
- ④デジタルドリルの活用

（3）宿題及び自学習の改善

- ①授業と連動させた内容の出題
- ②生徒実態や生徒の習得・定着度合いに応じた出題の工夫や内容の指導

（4）アウトプットの充実

- ①自己表現を位置付けた言語活動等の設定
- ②振り返りの工夫、自己調整を意識した振り返りの実施
- ③各種コンクールへの応募

（5）校内研修の充実

- ①職員研修での研究の方向性の共有
- ②授業や評価の実践交流を通じた課題や方向性の共有
- ③研究授業の推進と教員の授業参観の実施
- ④各種調査やアンケートの検証と分析及び全体周知
- ⑤1人1枚の対話を重視した単元構想シートの作成

（6）ICTの活用と指導

- ①基礎的・基本的な内容習得や定着
- ②協働学習や言語活動での活用
- ③生徒実態の把握と個別支援への活用
- ④全校朝会での ICT スキルアップ講座
- ⑤情報リテラシー教育の推進

(7) 小中一貫教育の推進

- ①表現力（アウトプット）を重視した教育活動の推進
- ②「学区コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の推進に向けた取組
- ③小中・小小連携による通学への不安解消（円滑な接続）に向けた取組
- ④特別の教科道德の推進
- ⑤小中合同行事の充実

8 検証方法及び目標指数

(1) 学力調査

- ①三次市学力到達度検査 全国平均以上
- ②三次市学力到達度検査 基礎・活用・記述の観点において市平均以上

(2) 学習・生活アンケートや振り返り（生徒アンケート：7月，12月に実施）

- ①「毎日の家庭学習は，目標時間（1年生 100 分，2年生 120 分，3年生 180 分）以上やっている。」に対する肯定的回答 80%
- ②「授業や生活の中で，相手に伝わるように説明したり自分の思いや考えを話したりしていますか。」に対する肯定的回答 80%

9 学校評価表

【探究的に学び続ける習慣の確立】

- ①対話を意識した単元構想シート一人一枚作成
- ②自主学習の各学年の目標枚数達成者 50%（全学年 50 ページ／学期）

【「かく」活動の充実と表現力の向上】

- ①グループ活動など，対話を意識した授業を全員が年 1 回以上実施する
- ②三次市学力到達度検査の活用問題で市平均以上
- ③定期テストにおいて，情報を整理して回答する問題を設定し，正答率を 50%以上。
- ④小中合同研修を年 2 回，小学校への授業参観・出張授業を年 3 回実施，小中合同研修を年 3 回，「かく」指導や五輪の書を用いた自主学習の方法等の系統づくり

【道德と総合的な学習の時間の充実】

- ①校内研修年 2 回以上
- ②道德の授業公開各学年年 1 回以上・小中合同研修年 1 回以上実施
- ③各学期 1 回の情報モラル教育の実施